

デーリー東北

2023年(令和5年)7月26日(水曜日) (22)



「ChatGPT」を巡る今後の展開について解説する島内宏和氏＝25日、八戸グランドホテル

生成AI活用の未来は

八工大准教授 島内氏が提言

デーリー東北政経懇話会

デーリー東北政経懇話会7月例会が25日、八戸グランドホテルで開かれた。八戸工業大准教授の島内宏和氏が「Chat(チャット)GPTの仕組み」活用事例

と今後の展開」と題して講演。対話型の生成系人工知能(AI)の活用について「リスクを過度に恐れることなく、『人間が中心の社会』の発展のために使っていくべき」と提言した。チャットGPTは質問に

対し、AIが人間のように回答したり、指示に従って自然な文章を作成したりする。文章の校正や要約、アイデアの提示といった活用が可能で、多くの企業が連携したサービスを展開中。表現も自然で、誰でも利用できるため、社会を大きく変える可能性がある技術として注目を集めている。

生成系AIの要素技術である機械学習を研究テーマとしている島内氏は、「AIは人が行っている知的判断を代わりに行う技術」と説明。チャットGPTは書籍1千万冊相当の膨大なデータを学習に使用しており、内容を忘れず、迅速に回答できる利点を挙げた。

ただ、誤った情報を回答として提示する問題点も。米国で弁護士が用意した書類に実在しない判例が含まれていたケースを挙げ、「利用する側が内容を精査する必要がある」と指摘した。情報漏えいや著作権の問題もあり、日本を含む各国で規制に関する議論がなされている現状を示した。

チャットGPTのようなサービスは各社で開発が進められているとし、「誤りもあるし、現時点で想定しないリスクも存在する。それでも、1千万冊の書籍に相当する知識などを活用しない手はない」と語った。

(藤村大地)